

ふるさとのお話

今泉の曾我堂



△十王子神社内の曾我堂

曾我五郎、十郎兄弟のあだ討ちの話は有名です。入山瀬の曾我寺や厚原の曾我八幡は、曾我兄弟を祭ってあることで知られています。このほか、今泉の十王子神社境内に「曾我堂」というお堂があります。このお堂は、昔、この付近にある曾我小路と呼ばれた小路の奥にあり、曾我五郎の木像を祭っているとされています。

五郎の亡霊が門前に

今から500年くらい前のことです。今泉に善徳寺という臨済宗の大きなお寺がありました。そのお寺の竺帆和尚というお坊さんが、ある晩夢を見ました。それは、富士の巻狩りのとき、親のかたきを討った曾我五郎の亡霊が、善徳寺の門前に立ち、竺帆和尚にぜひ会いたいと言いました。和尚は、五郎を本堂に入れ、話を聞きました。五郎は、「私はいま地獄の修羅道で、成仏できなくて困っています。どうか、私を成仏させてください」と和尚は、「よろしい。私の法力で必ず成仏させてやるから静かに待っていなさい」と言いました。五郎の亡霊は、につこり笑って姿を消しました。竺帆和尚は、それが

ら3日3晩、寝ずに五郎の木像を刻み、ほこらを建てて、その中に木像を祭り、朝晩お経を上げて五郎の魂を供養しました。そして毎年5月28日には、盛大な祭典をしたそうです。

山の神さんと合祀



曾我堂の近くに住む増田貞一さん(84歳)は、「お堂のいわれはよく知らないが60年~70年前にはね、すぐ近くに曾我小路と呼んでいた小路があつて、その奥にお堂があつたよ。そのころどういうわけかわからないけど、十王つあんきざの山の神さんと合祀したんだね」と語っていました。

地名の由来

かわ 川 しり 尻

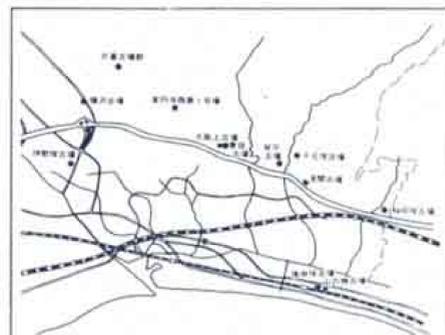


この村は、須津川のはんらんによってできた砂州地帯を開墾した村で、須津川の川下近くの村だから「川尻」と呼んだのでしょう。しかし一説では、先祖が大井川の川下近くの川尻村から移住してきたからだともいわれていますが、確かなことはわかりません。この村の開き始めは、湧き水のある荒間付近かも知れません。

古墳のはなし ⑮



古墳と祖先の生活



△市内の主な古墳分布図

あな 窓 がま 窯

山の斜面を利用してつくられたトンネル状の窯で、「須恵器」や「瓦」などを焼いていました。

幅は1~2m、長さは6~7mほどで、1,000度以上の高温で土器を焼くことができます。

市内では、須恵器を焼いた窯は発見されていませんが、県内では、藤枝や浜松周辺など県中、西部で多く発見されています。

市内にある古墳はいくつ？

昭和54年に出された「静岡県遺跡地名表」によれば、市内には345基の古墳が確認されていますが、大半は壊されています。

今では山間部の開発が進み、過去の調査では立ち入ることのできなかつた地域の調査ができ、市教育委員会は、現在あらためて遺跡の分布調査を行っています。

こちら編集室

4月は、入学、進学、就職それに人事異動のシーズンです。

我が編集室でも、7年間広報紙づくりに携わった職員が異動となりました。4月から、気持ちも新たに、新体制で臨みますのでよろしく。